

# 構造物変状計測システム

既設構造物の沈下・傾斜計測が全自動で可能

『構造物変状計測システム』は、既設構造物の直下あるいは隣接した場所でトンネルや山留めなどの掘削工事が行われる際に、工事の影響による構造物の沈下や傾斜を自動で計測するシステムです。

高精度な連通管式沈下計と固定式傾斜計を採用しており、信頼性の高い全自動計測が可能になります。

## 特徴

### 高い精度と信頼性

連通管式沈下計には高精度で信頼性の高いフロートセンサを採用しました。温度変化による測定値の変動が少なく、長期間精度が維持できます。また、傾斜計には構造が簡単で堅牢なものを用いており、長期耐久性に優れております。

### 自由な設置レイアウト

測定点間に障害物があり見通しがきかない場合でも、連通管やケーブルが接合できれば計測は可能です。現場事務所などの管理場所と測定場所が離れている場合でも、公衆・専用電話回線を用いて遠隔計測が行えます。

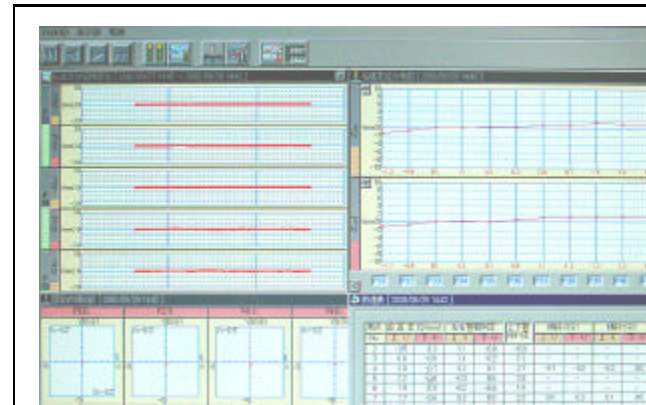
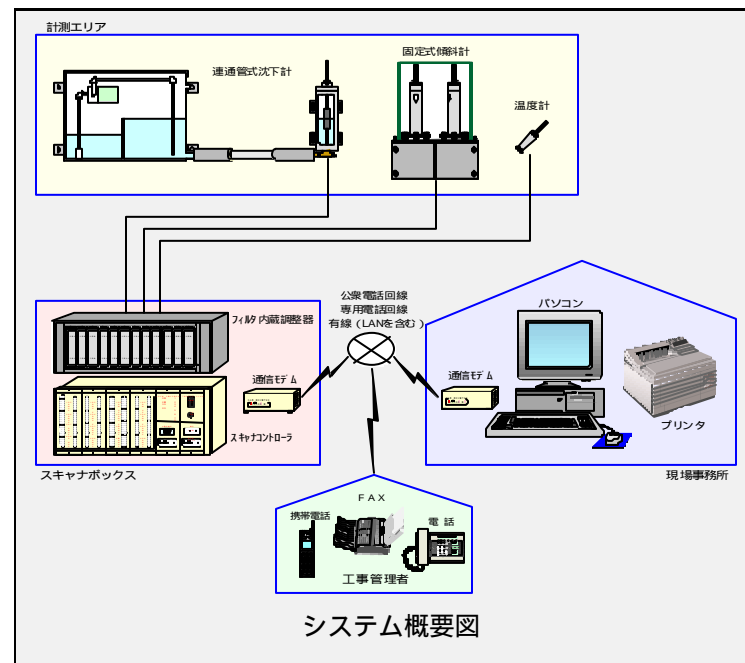
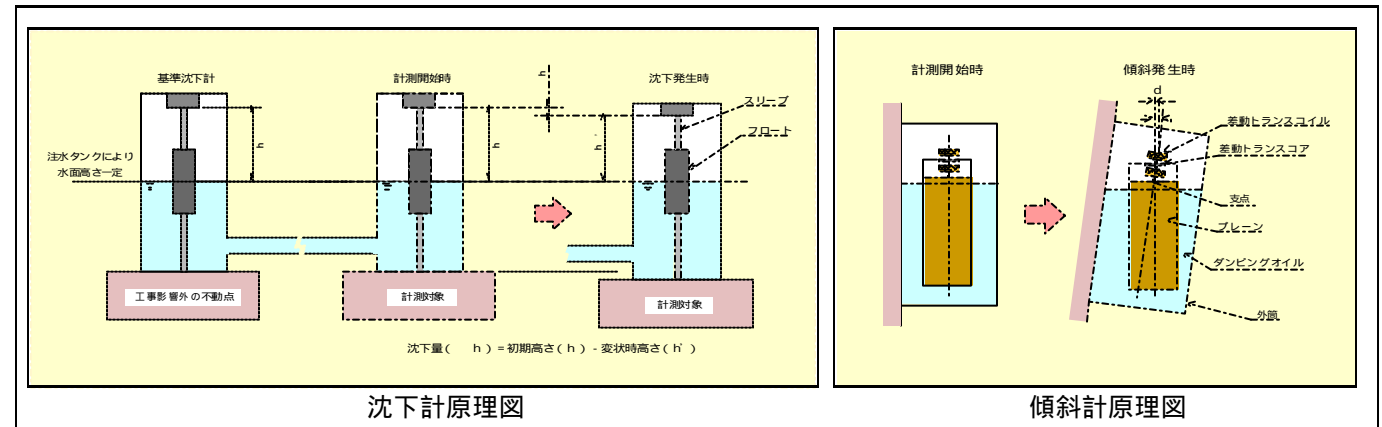
### 管理業務の省力化

変位量が管理値を越えた場合、電話（携帯電話を含む）やFAXによって工事管理者に知らせることが可能です。計測したデータは事務所内に設置したコンピュータにより演算・処理され、モニターに表やグラフとして表示されます。また、計測データの経時変化図や週報・月報といった報告書類の作成が短時間に行えます。



仕様表

連通管式沈下計		
型式	DT-700F-25-01	
測定範囲	FS : ±25 [mm]	
精度	FS : ±1.0 [%] 以内	
最小読取値	0.01[mm]	
連通管	テフロンフレッドホース : 33 [mm]	
寸法	100 (L) × 100 (W) × 200 (H) [mm] カバ-含	
重量	約5.0 [kg]	
注水タンク	形式	DVL
	吐出量	0 ~ 1,900 [cc/min]
	容量	約10 [Liter]
	寸法	400 (L) × 150 (W) × 310 (H) [mm]
固定式傾斜計		
形式	DC-30	
測定範囲	FS : ±30 [分]	
精度	FS : ±1.0 [%] 以内	
最小読取値	0.03[分]	
温度範囲	-10 ~ +40 [ ]	
単体寸法	48 × 205 (H) [mm]	
単体重量	1.8 [kg]	
温度計		
形式	RT-100	
測定範囲	FS : -10 ~ +80 [ ]	
精度	1.0 [ ] 以内	
寸法	17 × 130 (H) [mm]	
重量	0.2 [kg]	



制御パソコンのモニタ画面



新幹線高架橋への適用事例



首都高速道路橋脚への適用事例



鉄道軌道道床への適用事例